



平成27年7月31日

伊豆市議会議長 杉山 誠 様

第2委員会 大川明芳

### 伊豆市議会第2委員会 行政視察研修報告

第2委員会は、去る7月15日(水)から17日(金)の3日間、福井県の勝山市、石川県の金沢市、富山県の射水市と富山市を視察研修しました。

第1日目は、13時30分から市制施行昭和29年9月1日、現在人口約2万4,600人、面積約254km<sup>2</sup>、年間観光客約140万人の勝山市役所を訪問し、「子育て支援日本一の取組みについて」研修しました。

まず初めに、取組みを始めた経緯としては、効果的な育児助成等の実施により、出生率の高まりに加えて、育児不安の解消に寄与することを目的としています。出生数の変化では、平成になっても減り続けており、長引く不況による経済的不安や出産・子育てへの不安などが少子化を加速させている原因となっている。

市と県の施策内容で、子ども医療費の補助では、市は全児15歳(中3)の年度末までを対象に小学4年生から中学生までの1月1医療機関500円の自己負担設定ありで、県は全児9歳(小3)の年度末までが対象で、小学生の自己負担を市と同じとしている。また市は、保育園保育料、一時預かり事業、病児保育事業、子育て生活応援隊事業について、世帯の第3子以降児は就学前まで無料としている。

市民ニーズの吸い上げ方法としては、子ども・子育て等に関するアンケートの実施、保育園保護者連合会と市長と語る会、利用者支援事業など実施している。

市の保育料は、県下トップクラスの軽減率を実現し、第3子以降は無料、3人同時入園の場合2人目は2分の1、3人目は無料、2人同時は2人目は2分の1。休日保育事業は、1保育園で実施して、両親がフルタイムなど標準認定預かり時間は長く、7時から18時とし、昨年度は107人の利用があった。「ふれあいの里・かつやまっ子」すくすく育成奨励金の昨年度交付人数は、107人で1,070万円の決算額であった。

企業への職場環境づくり取り組み支援については、ないとの回答でした。

母親が就職活動をする期間中の支援策として、3カ月程度で入園可としています。また核家族化における悩みをもつ母親の現状と支援策について、医療費助成、保育料の軽減などの経済的負担の軽減や保育園での一時預かり、子育て生活応援隊等のサービスの案内など、心身の負担の軽減策などがあります。

婦人科医は総合病院1カ所で非常勤医師である。小児科医は、総合病院1と診療所2である。

児童センターは児童に健全な遊びを与えて、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的として10カ所あり、市内9校の公立小学校に対して、すべての公立小学校区をカバーしています。

児童センターは放課後児童クラブ(学童保育)、放課後子ども教室、児童センター事業の3つの事業を行っています。

特徴は基本的に利用は無料。すべての児童を受入れている。開館時間は学校に合わせている。夏休み等、学校の長期休業時は朝から開館している。

平成26年度の3事業の利用状況は、児童数1,149人、登録数763人で利用人数は90,254人で職員は、10カ所38人で対応しています。

勝山市の子育てに関する課題として、結婚したくなる環境づくり、出産できる医療機関の整備、第1子・第2子に対する支援、第3子以降に対する支援、地域における子育て支援サービスの充実の5つがあげられ、今後は出生数の増加に効果的な施策の実施が必要としております。

勝山市は、伊豆市と同じように出生数の低下や市外への転出により、人口が減少傾向にあります。男女ともに晩婚化が進み、1世帯あたりの人員も減っています。また、市外通勤している人も増加しています。

そんな環境の中で、子育てに対する不安が増大していますが、勝山市では子育て環境日本一を目指した、いろいろな支援策を伺うことができました。

第2日目の午前は、10時から市制施行明治22年4月1日、現在人口約46万4,000人、面積約

469km<sup>2</sup>、年間観光客数800万人の金沢市役所を訪問し、北陸新幹線開業に伴う文化財を活かした取組みについて研修をいたしました。

金沢市では、「新幹線開業プロモーション・イベント実施計画」策定の経緯として、本年春の北陸新幹線開業に向けて、開業効果を最大限に引き出すため、「金沢魅力発信行動計画」の実践に取り組んできました。昨年には、特に重点的に取り組むべき施策をカウントダウン・ミッションとして、「後期実践方策」に盛り込んでおり、その具現化策の一つとして、策定するものです。

プロモーションの強化として

- 1.金沢の強みの発信とともに、危惧されるマイナス効果を解消する「首都圏における総合的プロモーションの展開」。
- 2.日帰り客の増加懸念を払拭し、宿泊需要を拡大する「滞在型観光の促進」。
- 3.開業効果を持続させ、文化財・歴史遺産探訪などをいかした、何度でも訪れたいくなるまちをめざす「リピーター拡大に向けた展開強化」。
- 4.都市間連携により、エリアとして売り込み、相乗効果を図る「都市間交流・連携によるプロモーションの推進」。

受け入れ環境の整備として

- 1.市民意識を高め、おもてなしの気運醸成を図る「開業気運の醸成と開業記念イベントの開催」。
- 2.来街者が便利に移動でき、快適に楽しんでもらえるよう手荷物預かりや交通手段など環境を整備する「おもてなし環境の整備」。
- 3.タイムリーな情報収集を可能とするICTを活用する「ICTを活用した情報発信の充実強化」。

開業効果を最大限に引き出すには、首都圏側として首都圏からの交流人口の拡大のための、プロモーションの強化と金沢側では、おもてなしの気運醸成など受け入れ環境の整備に取り組む二つの重点的な施策展開が必要であり、7つの柱で計画を構成したものでした。

市内の文化財としては、兼六園内にある、加賀前田家が造った奥方御殿の成巽閣、金沢城内の五十間長屋、三十間長屋など国指定の重要文化財が多く、戦災を受けなかったこともあり、当時の歴史的建造物が多く受け継がれ、これらはまさに加賀藩前田家が残した貴重な文化遺産であると思われました。

北陸新幹線開業後の本年4・5月の対前年比で、各文化財施設の利用者数は約2～6割の増と大変多くの観光客が訪れていることを伺うことができました。

第2日目の午後は、1時10分から富山県射水市役所を訪問。「中学校の統合について」研修しました。射水市は、市制施行平成17年11月1日、5市町村が合併。人口約9万4,400人、面積約109km<sup>2</sup>で富山湾から平野そして丘陵までが半径約7kmにまとまるコンパクトな地域です。

当市では、平成25年4月1日、奈古中学校と新湊西部中学校両校の統合により、射水市立新湊中学校を創立。同年8月23日に奈古中学校跡地に新校舎を起工し、学ぶ。

平成27年3月29日、新湊中学校の竣工式、4月から新校舎へ移動して現在学習している。

[中学校の統合について]の質疑事項についてを伺いました。

1.統廃合の理由と目的について

「生徒数の減少による学級数の減(1学年で1クラスの学年が見込まれた)、部活動数の減」。

また、「学級数減に伴い専門教科教員の確保ができなくなる」。目的としては、「学級数の維持、部活動数の確保、専門教科の教員を多く配置」。他の課題として、「1校で校舎の老朽化に伴う改築・耐震補強、他校で大規模改造を計画する時期を見据える必要性」があったことです。

全体に係わる目的では、「子どもたちにとって望ましい(切磋琢磨できる)教育環境を確保すること」でした。

2.説明責任・合意形成について

意見交換会は、2年間で12回、自治会・保護者・連絡協議会・PTA・自治会長・関係団体合同などを対象に参加者約400人余で実施している。

話し合いでは、「校舎の位置、整備方法、学校生活、心のケアや交流活動、人口増対策」の問題点があった。

審議事項では、「子どもたちにとって望ましい教育環境を確保する」ことが特に重要視された。

保護者、祖父母、地域住民の意見の取り入れ方として「意見交換の中や以後統合までの間に出了た意見・要望等については、学校や教育委員会で検討しながら、できるものは対応した」。

3.統合協議会について

協議会の運営や協議会だよりの発行及び配布方法などについては、「学識経験者、自治会関係者、PTA関係者、関係小中学校長からなる統合協議会を設置し、7回開催した」。「協議会だよりは5回発行、市の広報配布に合わせ関係自治会に配布依頼した」。

4.建設費及び改築費について

新校舎の建設費総額と財源は、「新校舎建設費は28億5,200万円、財源の内訳は、国補助8億4,900万円、市債(合併特例債)18億2,300万円、基金8,600万円、一般財源9,400万円です」。

新校舎建設までの改築費用は、「プールの解体、自転車置き場の整備、校章銘板の取替え、

エアコンの取替え等1,300万円です」。

#### 5.統合後について

統合前と統合後における生徒の様子、意見・評価は、「両中学の教員の人事異動が小さく、生徒たちとの関係が構築された状態であったので、生徒たちも落ち着いて学校生活を送ることができた。生徒たちには、新しく生まれ変わった中学校の校風を自分たちで創り上げていくんだという気構えを持たせるようにした。生徒たちもそれに応えるべく、お互い分け隔てなく一生懸命に取り組んだ。予想以上に仲良く交わっている」との良い評価でした。

統合後のPTAの評価は、「子どもたちの教育環境が良くなった。また、校風を自主的に創りあげていくという意識のもと、生徒の一体感も育っている」との評価を得ています。

廃校となった地区の様子や地域住民の評価は、「生徒たちの姿が見えなくなり、さびしい気持ちがある」といった意見があります。

通学時間や通学方法が変更になる生徒における問題点と解決策について、「自転車通学者には、警察等とも連携して自転車安全運転指導をおこなっている」。冬期間の通学安全の確保として「自転車通学者のうち、冬期間の公共交通等の利用者に助成(補助率2分の1、上限2,000円)している」。また、通学時間帯には列車の車両数を1両から2両に増やしたり、バスの運行数を増やしてもらった」。

新たな課題や問題点として、「統合当初は、両校の細かな運営のやり方が異なることから、教員の意味統一から始める必要があり、その分の時間を要した」。

今後も小学校や中学校の統廃合の検討については、「小学校で単級の学校が4校ある。この他、人口減少に伴い、統合を考えていく必要がある小学校もある」、としています。

#### 6.その他

中学校同士の統合ではなく、小中一貫校などの選択肢を検討したかどうかでは、「小中一貫校については、中学校の新校舎近くに小学校があることから、小中一貫校について模索したが、限られた期限の中で統合と同時にすることは、難しいと判断をした」ことでした。

一番苦勞された点は、「中学校を統廃合すると次は小学校がなされるのでないか、一つの施設の廃止が他の施設の廃止につながることも考えられ、まちから活気がなくなるのでないなど住民感情に対する丁寧かつ説明に苦慮した」ことでした。

他に統合協議会が設置されてから、統合中学校開校までの約1年で決定しなければならないことが多くあり、先生方も負担が大きかった」ことを伺うことができました。

以上、中学校の統合について伺うことができましたが、地元の理解を得ること、市議会議員の理解を得ること、他に校章デザインの変更、校歌の作り直し、制服・運動服の業者との関係など決定に至るまでの、多くの苦勞を伺うことができました。

射水市役所を後に、本年春竣工の真新しい射水市立新湊中学校を訪問いたしました。亀田校長先生の挨拶、中学校の概要説明の後、3階建て校舎内、教室、体育館、図書館、運動場と総面積約3万7,000㎡の校地校舎を授業中にもかかわらず、見学をさせていただきました。

大きな声で挨拶ができ生徒は、自ら挨拶のできるすばらしい環境にあることが、伺えました。

第3日目の午前は、9時から市制施行平成17年4月1日、人口約41万9,000人、面積約1,242㎦の富山市役所を訪問し、「富山型デイサービスについて」研修いたしました。

#### 1.富山型デイサービスの事業内容について

特徴は「街中の民家を改修して造った、地域と密着した小規模なひとつの家と高齢者・身体障害者・知的障害者・心身障害児・乳幼児を同じ施設で同時に処遇する共生ケア」の小規模と共生がキーワードです。

#### 2.施設について

富山型デイサービスを実施している施設数は「富山市内46カ所と他市町7カ所の53の事業所があります」。

交流の場は「利用者個人や時間帯にもよりますが、同室・別室にできます」。

乳児から高齢者の必需品は「個人で用意します」。

食事提供については、「専門の調理人がいて、施設内で調理し、皆で手伝います。月に数回外注のときもあります」。

#### 3.利用者について

デイケア事業の介護対象者は、「3歳以上の身体障害者手帳1・2級もしくは療育手帳所持者」が利用できます。

待機者の現状は、「わかっていない」とのことでした。

家族との関わり方については、「お互いに言いたいことが言える、フラットな関係ができている」とのことでした。

#### 4.職員について

職員の研修は、「県内外・市内で実施している。個人ごと施設内の業務体験や学習をして、各種の資格を取得しています」。

職員の待遇として、「採用決定で最大10万円の転職祝い金支給」。業務上において、「その人のできる仕事をさがし、その人にあった仕事を楽しくて務めてもらえる職種」を考え、与えている。

#### 5.料金体系について

公費では、「事業所に対しての運営については、助成していませんが富山型事業所を立ち上げるための施設整備については、新築整備と住宅改修に助成制度を設けています」。

費用の共通的サービスとして「要支援1は、1カ月1,647円、要支援2は、3,377円、他に選択的サービスが掛かる。要介護1は1日656円から5は1日1,144円の料金になる」。

請求事務において、「介護保険・障害者福祉サービス等また、送迎費用・食事提供等の加算があり事務が煩雑になるが、システム入力により、解消しています」。

#### 6.医療機関との連携について

「大小多くの医療機関と提携しています」。

#### 7.行政との連携について

「県や市と連携し数回にわたり構造改革を行い、現在では自立訓練以外は、全国展開されています」。

#### 8.今後の課題

「高齢者と身体障害者・知的障害者・心身障害児・乳幼児が同時にサービスをうけることとなるので、障害特性に応じた処遇が確保されるか、課題がある」としています。

#### 9.その他

立ち上げについては、「施設の改修等の経費、国の保険制度の変動、支援費制度等多くの問題があり、事業所だけの立ち上げはできなかった」とお聞きしました。

「近所の家に遊びに行く感覚ででかけ、受け入れはいつでも誰でも可能で、一日家族のように過ごせる第二の我が家」として、支援・提供できる富山型デイサービスについて、伺うことができました。

富山市役所を後に、富山型デイサービスの山田紀子代表の事業所「ふるさとのあかり」を視察しました。

玄関で靴をぬき、中は小さな部屋が数多くあり、それぞれの部屋に利用者が見られ、物づくりなどしている処を声をかけながら進み、奥の広間へ通され、山田代表から市役所で研修したことと同じに近い話を、聞くことができました。

何かの都合や学校の長期休暇等で、子どもを見られない時などに乳幼児の・児童の預かり。子育て相談の受付などの子育て支援。

様々なイベントの開催、生け花やカルチャー教室、整体などにも地域交流室として使用されています。

介護に関する相談、介護認定の申請代行、介護サービスの導入・調整、他の関係機関との連絡調整等の相談にのる居宅支援事務所として。

家族の都合などで自宅での世話が困難になった時など、一時的に宿泊できるショートステイのサービス。

赤ちゃんからお年寄り、障害の有無に関わらず日掃りで利用できる通所介護サービス。家庭的な雰囲気です。食事、入浴等ができる富山型デイサービスを伺うことができました。

デイサービス事業者、行政、地域の皆さんが一体となって進めなければならない、事業であることがわかりました。

以 上